

平成28年5月30日

平成28年度 学校関係者評価報告書

学校法人高村育英会
国際観光専門学校熱海校
学校関係者評価委員会

平成28年度 学校関係者評価委員

(関係企業等)

植松 司 氏 株式会社ホテルニューアカオ 常勤監査役
井堀譲治 氏 学校法人加藤学園 加藤学園高等学校総合学部長

(卒業生関係)

矢野 健 氏 国際観光株式会社 営業部

(近隣住民代表)

北島鐵修 氏 近隣住民

以上4名

欠席委員 矢野 健 氏

(同席の本学職員)

板垣典明 校長 自己点検・自己評価実施責任者
福田 淳 副校長 教務課長
大木 正 広報課長
中野 功 広報課長代理

1 教育理念・目標

○現状と問題点

- ・教育目標、育成人材については、入学案内書・ホームページ等に掲載してその周知徹底を図っている。
- ・自力進学制度（ホテル委託奨学生制度）を利用して勉学に励む学生が全体の71.6%に達すること。
- ・「学校創立50周年」を控え、施策決定を議論している。

○改善のための方策

- ・教育理念を念頭に我々が日々如何に仕事を行うかが重要であり、目標達成のための唯一無二の方策である。挨拶の充実、整理整頓、教職員が模範となること。
- ・入学前オリエンテーションにおいて、新入生に理解させる。
- ・開校以来のホテル委託奨学生制度を最大の特色としているが、創立50周年に向けて新たな特色づくりを急いでいる。

●学校関係者による評価

- ・理念はゆるぎないもの。
- ・実践項目は、時代の流れによって変化すべきだ。（各学科によって、より詳細なものに。）これを変化させないと現場が困る。
- ・企業の場合も「社是」は不変のもの。
- ・事業計画は、外的要因・内的要因等によって変化するものである。
- ・社員は全員「ホスピタリティーブック」携帯し、仕事に臨んでいる。
- ・大切なことは先を見据えた仕事をするることである。

2 学校運営

○現状と問題点

- ・運営方針、事業計画は年度末の理事会・評議員会・運営会議で決議されたものを翌年度の方針として定めている。
- ・学校法人の就業規則、その処遇については明記されており、よく整備され機能している。
- ・学校法人の組織・意思決定機関は、理事会・評議委員会・運営会議とそれぞれ効率よく機能している。
- ・運営会議 → 評議委員会・理事会と法人の意思決定システムは確立している。

●学校関係者による評価

- ・職員全員が私学人であることをよく理解し、経営参画意識を高めることが重要である。
- ・「戦術」を練るより「戦術」を立てること。先を見据えた戦略を立てよ。
- ・校長は、ミドルリーダーを育てよ。

3 教育活動

○現状と問題点

- ・現場力を育む実践教育の場として、どの業界・どの企業からも嘱望される人材育成を目指すための途上にあると考えている。
- ・基本的な礼儀・職業人としての応用力を身に付けるため、2年間で達成すべき教育目標は定めている。
- ・観光業全般を目指す総合学科として、「ホテル」「ブライダル」「トラベル」「トランスポート」「エアポート」と大きく5分野についてのゼネラリスト育成のためカリキュラムを編成している。
- ・資格取得対策授業と職業実践のための授業とバランスよく位置付けている。
- ・学生アンケート内容を教員にフィードバックして個人及び学校全体で研究研修を実施している。
- ・常勤、非常勤ともに目標必達のために業界の歴史と伝統をはじめ、最新の情報を伝達することができる教員を確保している。
- ・学生便覧の中で、1履修要項に授業評価、評価体系について明確に標記している。
- ・国家資格取得を最重要課題として、目標資格・選択資格を区別し指導を実施している。
- ・卒業後に、文化活動・スポーツ活動・レクリエーション活動・ボランティア活動等を通じて生涯に渡って、生き生きとした生活を送ることに対しての指導は、若干不足しているので、ホームルーム活動を通して生涯学習の大切さの啓蒙を図って行く。
- ・付帯教育授業に対しては、対応が遅れている。

○改善のための方策

- ・自分の現状をよく把握して、問題点を明確にし、生涯を通じて学習活動を継続していくことの重要性を理解させる教育を実践する。
- ・今後、大学編入希望者等に対応するために付帯教育については対処する体制を作り上げていく。

4 学修成果

○現状と課題

- ・内容を精査すると若干の問題点もあるが、平成27年度の就職率は100%で平成26年度と合わせ2年連続で100%を達成した。
- ・合格者数、合格率については今後の努力が一層必要であるが、卒業までに最低1つの資格取得を達成する。の目標は達成することができた。
- ・平成27年度は前年度比減となり、生徒指導の取り組みの成果が表れてきている。
- ・定期的な企業訪問を実施し、卒業生の活動状況は把握できている。観光分野を中心に業界関係者より概ね良好の評価をいただいている。

○改善のための方策

- ・学生の将来のために資格取得が重要であることを教員が認識し、日々の授業に邁進することが重要である。
- ・高校生との面談機会に、できるだけミスマッチを減らすために、本校の教育内容雰囲気を知ってもらう取り組みが必要である。

●学校関係者による評価

- ・就職率も重要だが「ブランド企業」への就職について実績を上げるような学校による努力が必要である。その実績が経営とリンクしてくる。
- ・就職実績、資格取得実績は重要項目である。毎年の進歩を目指すこと。

5 学生生活支援

○現状と課題

- ・就職課担当、担任による「就職ガイド」「ホームルーム」を中心に全体指導を行い、法人本部顧問による個別面談を実施し支援体制を整えている。
- ・就職課職員及びクラス担任が対応している。1年生の後半より就職活動が開始されるので、連日学生個々が相談に職員室、就職相談室を訪れている。
- ・委託奨学生制度、オリエンテーション、日本学生支援機構を含め支援体制を導入している。
- ・4月に健康診断を実施している。その上で問題があった学生に対しては再検査、治療の指示を行い健康管理には万全を期している。
- ・学生自治会を中心に、球技大会、BBQ大会、バス旅行等を企画運営しているが、日々の生活の中で企業研修を実施している学生が多く、回数は不足していると思われる。
- ・ホテル委託奨学生（企業研修）については、各企業の社員寮を提供している。

- ・定期的に出席状況報告書と定期試験結果報告書を送付している。その他、必要に応じて相談、報告を行っている。

- ・同窓会などに対してできる限り援助をしているとともに、再就職支援など「卒業後10年」を目途に支援体制を整えている。

○改善のための方策

- ・平素の授業回数に影響が出ないように行事予定を作成し、学生主体の課外活動の機会を増加させる。
- ・学生寮がないので、親元を離れて本校へ進学する学生に対する支援が必要である。

●学校関係者による評価

- ・学生に対して有意義な施設、設備の充実を図ることが大切である。
- ・アニバーサリー、サプライズと言った方向性を大切に、学生に喜んでもらえる取り組みを作り出すことが大切である。

6 教育環境

○現状と問題点

- ・本校の教育内容上、必要な施設、設備は最低限度整備されている。
- ・首都圏を中心とした空港、旅行代理店、ホテル、ブライダル等の企業へのインターンシップ参加が可能な状況である。
- ・防災訓練の実施と飲料水、非常食、簡易防寒防水ブランケットの準備をしている。

○改善のための方策

- ・日頃の施設設備の点検業務を十分に実施し、問題があれば直ちに対応すること。
- ・相模湾沿いの立地条件に対する津波対策を確立する。避難訓練、避難場所の確認。

●学校関係者による評価

- ・簡易トイレを準備すること
- ・地震津波を想定した訓練を行うこと。
- ・災害協定を結ぶことも考えてみてはどうか。

7 学生の受け入れ

○現状と問題点

- ・学則上の募集定員には、遠く及ばない受け入れ状況なのが最大の問題点である。

○改善のための方策

- ・教育内容の充実と総合的な学校力を高めていくことが急務でらる。

●学校関係者による評価

- ・学校の魅力を自信をもって、高校生・高校教員・保護者等に伝えることができる営業方法を構築すること。

8 財務

●学校関係者による評価

- ・学校財務は、一年間の学納金が決まっています、それを如何に教育の内容向上等の為に計画的に支出していくかが重要である。中期的なビジョンの計画をしっかりと立てること。

9 法令の遵守

○現状と問題点

- ・マイナンバーに係る個人情報の取り扱い管理体制の厳正化を図ることを第一とする。

●学校関係者による評価

- ・設置基準を見据えながら、正しい学校運営を期待する。

10 自己点検 自己評価 第三者評価

○現状と問題点

- ・第三者評価の実施を今後検討し、実施していく道筋を立てる必要がある。

●学校関係者による評価

- ・自己点検、自己評価及び学校関係者評価のさらなる充実と併せて、大学等が既に実施している第三者評価について研究することが今後は大切ではないか。